



尼崎医療生協 7月豪雨災害支援ニュース

第7号 2018年9月29日

尼崎医療生活協同組合

9月8日（土）に予定していた支援は台風21号の影響もあり中止、9月22日（土）に第7回目の支援隊を送りました。以下、参加者からの感想です。支援参加者は延べ40名となり、

○支援先は築45年の酒屋さんで、土壁を剥ぎ取り、土を土嚢袋に詰める。土壁を支えていた竹などを外に出すというものでした。家は3階建てで2階の天井まで水が上がってきたようですが、今でも3階に住まれています。今後、残っている土砂をきれいに除き、床や家財を搬入していくとのことでした。作業は10人で行いましたが、土壁を全部剥がして出た土砂や木材などを外に出すのがやっとでした。思っていたより復興にはまだまだ時間がかかりそうです。ボランティアに行き、一番驚いたのはボランティアに来る方がたくさんいらっしゃったことでした。同じ岡山県内でもボランティアに来るのが10回目とか30回目とかのベテランさんもいてこの前は北海道から来た人もいらっしゃったそうです。利益がなくても困ったときに助け合える、助けてあげたいと思って行動している人がたくさんいるということを知ってとても感動しました。また機会があればボランティアに参加したいと思います。日々の業務でも困った人たちを助けるという気持ちを忘れずに行動していきたいなと思いました。

○岡山支援に行く前日、ボランティアを受けるかは向こうが決めるから、もしかしたらあまり仕事無くて帰ってくるかもね。という話をしていました。しかし、岡山に行くと、仕事がないだなんてそんなことありませんでした。2階まで泥に汚れた家の外壁、床板を剥がしてからっぽな家が立ち並び、車から降りると砂ぼこりが舞っているような状況でした。今回ボランティアをさせていただいたお家には訪問者が多く、お家の方も少し笑顔がありました。広いお家で、1人でちょっとずつはするけどなかなか進まない。ボランティアがあって助かってますとお話を聞きました。災害から約3ヶ月経ち、他の地方での地震や台風での被災もあり岡山での状況は実際にみないとわからない状況だと、改めて感じました。前日、話していたことがいい例だと思います。また、被災当時は、雨がすごいなと感じながら家で過ごしていたら、急に水位が上がってきて過ごしていた家も日常も一瞬で失ってしまったんだなと作業をしながら恐怖を感じました。今回、貴重な体験をさせていただき、長期的で継続的な支援が必要と学びました。



9/25 現在支援募金額 536,612円

内、10万円を全日本民医連通、10万円を日本医療福祉生協連合会通じ、義捐金として送りました。その他にボランティア派遣にかかる費用として176,791円活用させていただいています。